

実践報告

札幌市立前田北小学校

(1) 研究内容

研究課題：「性に関する学習の研究」

- いのちの大切さを性に関わることを中心に学びながら、一人一人を尊重することの大切さを学び、実践しようとする態度を身に付ける。

(2) 実践の内容

【実践】6年総合「命のかがやき」の授業

○ ねらい

- ・ 命の大切さを様々な視点から学び、中学生に向けて互いを大切にすることの心や態度を養う。
- ・ 子どもが性に関する諸問題に対して、適切に意志決定し、行動選択できる力を身に付ける。

○ 学習内容

性に関する問題は互いを大切にすること、命の大切さを学ぶことにつながっている。そこで、この単元では命の大切さを学ぶ中で性に関する諸問題や人権について子どもに問いかけ考えさせる授業を構築した。

①命の大切さとは何かを互いに考える。

1時間目は導入として子どもたちの捉える「命」について話し合い、どのようにすれば大切にすることができるのか考えた。その中で様々な差別（人種・宗教・年齢など）の中から性差について取りあげ、今の自分にできることは何かを互いに考えさせた。子どもたちからは自分が経験したこと（男だから・・・、女だから・・・など）を出し合い、学校生活の中で性差にこだわらず、一人の人間として互いを尊重することが大切だということを感じていた。



②互いを大切にすることの行動の仕方を考え、学ぶ。

2時間目は性差に関係なく互いに尊重する良さを感じさせるために、グループエンカウンターの手法を用いて授業を行った。ゲームを通して子どもたちは人と関わる良さや、どのようにお互いに関わり合うとよいかなどを体験的に学ぶことができた。特に、問題解決を伴うゲームでは、男女関係なくみんなで意見を言いながら課題を解決していくことで、解決できた時の達成感をみんなで共有し、互いを大切にしながら協力する良さを、身をもって体験することができた。

③助産師によるいのちを伝える出前授業。

助産師会から田代先生を迎え、講話をいただいた。ビデオで出産の様子を見ながら親の気持ちを話していただいたり、赤ちゃん人形を実際に抱いてその重さを感じたりすることで、生まれてくる命の重さを子どもたちは感じていた。

子どもたちからは「今の自分がいるのは親のおかげと、奇跡があったから。」「自分の命を大切にしていきたい。」「生んでくれたお母さんやその周りに関わってくれた人がいたことを忘れず感謝したい。」などの感想を聞くことができた。



④中学校に向けて自分の行動を考える。(まとめ)

三つの実践を通して子どもたちが感じた「命の大切さ」を自分なりの思いをもって発信するため、ポスターの形でまとめた。

それぞれ思い思いの表現を使って、「命の大切さ」や「人を思いやる心」「いじめを止める勇気」など、自分が大切にしたいことをまとめていた。

今回の授業を通して命の大切さだけでなく、周りの人のことを考えることの大切さを学ぶことができたと感じている子もいた。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 今回の授業を通して子どもたちが「命の大切さ」を考える機会を得ることができた。「命は大切だ」というだけでなく、子ども自身がどのように行動することが大切かを学ぶことができた。
- ・ 総合的な学習の時間を中心に単元を構成することで、今まで断片的に取り組んでいた性に関する教育、人権に関わる教育、命を大切にする教育を大きくくりで学ぶ体制を整えることができた。

② 課題

- ・ 今回は年度の途中に行った活動であったので、短い時間の中で取組となった。そのため十分に子どもたちの意識を変えることができたとは言いがたい。次年度は1年というスパンの中での取り組みを考えていきたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 人権教育を、性に関する学習と関わらせて学んでいくことは、一人一人が命について考えることに他ならない。子どもが自分事と捉えられるよう、身近な問題を提示したり、体験的な活動を取り入れ、体感させたりして長期的に学んでいくことが大切だと考える。